

平成28年度 学校評価

職員アンケート結果

1 「夢」や「志」の実現に、粘り強く挑戦し続ける自立した生徒の育成					職員アンケート結果									
No.	重点項目	部・学年	具体的取り組み	評価指数	中間評価	最終報告	A	B	C	D	スコア4点	最終評価	次年度に向けた展望	学校評議員・学校関係評価委員の提言
1	基礎基本の習得を大切にしたい学びの場の創出	生徒指導	・授業規律週間を毎月設定し、生徒の授業態度の向上を図り、教員相互の意識を高める。	・各学年とも授業規律習慣における指導対象者0を目指す。	C	・教員の意思統一がなされていない部分や指導が不徹底な部分があり、巡回者と、授業担当者の指摘に温度差があった。	9%	43%	34%	13%	2.5	C	・次年度、生徒への注意喚起と事前指導により指導対象者0を目指す。・公開授業とコラボし、教師の授業評価と生徒指導を評価する形が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律について、教員相互の研修要素を加え「巡回」より「同室複数指導」という観点が必要になると思う。 ・読書活動の定着や自主的学習が有効である。 ・各種の「資格」に挑戦することで目的意識や自覚が生まれ、自信に繋がる。 ・図書室を充実させ、本に興味を持つ取組が必要である。 ・基礎学力の伸長には基本的な生活リズムのもと課題等の提出率を100%にし、小テストで合格させることが大切である。 ・人格形成にもっとも重要かつ多感な高校生時代に学ぶべきことは、まさに基礎基本。1・2年生の朝の読書による読書習慣を身に付けさせる取組はとても良いことだと思う。一方で学校を訪問して思うのは『あいさつ』が出来る子が少ないということ。教室や部室の掃除等の習慣化に対して教職員による意識づけ動機づけが体系的に出来ていないことも残念である。基礎基本とはまさに『当たり前』の事を当たり前のように出来る』ことではないか。
		教務	・学校設定科目「ブラッシュアップⅠ・Ⅱ」において、基礎学力の到達度を確認し、発展的な学習内容に繋げる。	・学習到達度テスト6級到達率100%、10級到達率20%以上を目指す。 ・ブラッシュアップの実効性に関する検証を行う。	B	・(1学期)6級到達率99%、1級到達率6%。 ・(2学期)6級到達率100%、1級到達率4%。	17%	45%	25%	13%	2.7	B	・教育課程の見直しの中で次年度より開講しないこととなった。各教科・科目の中で小テスト等で対応していく。	
		1年	・週末課題により、学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。	・週末課題の提出率100%を目指す。 ・小テストの合格率、英単語60%、漢字語彙力40%を達成する。	C	・課題提出率は英国とも90%程度であった。小テストの平均合格率は英語55%、国語15%である。英語は回が進み難易度が上がるにつれて合格率が低下した。国語は難易度が上がっても合格率は維持した。	17%	52%	29%	2%	2.8	C	・基礎学力と学習習慣の定着には今後の継続的な取り組みが必要と考える。	
		1・2年	・「朝の読書」の時間を毎日8:30(1年)、8:35(2年)より設定して読書習慣の定着を図り、授業の開始に向けた落ち着きのある雰囲気醸成する。	・「朝の読書」の達成率100%、本の持参率90%以上を目指す。	A	(1年)・本を持参しない生徒はほぼいなくなったが、長期休業後・考査後等に用意を忘れる者が若干いた。 (2年)・朝の読書の達成率、持参率90%達成した。徐々に集中して取り組めるようになった。	29%	63%	6%	2%	3.2	B	・朝の時間帯のより有効な活用法を考える。	
		2年	・週末課題により、学習習慣の確立と基礎学力の定着を図り、小テストとリンクさせることで基礎学力の定着を進める。	・週末課題の提出率80%以上、英単語テストの合格率60%以上	C	・週末課題の提出率(国語80%、数学95%、英語90%)であった。 ・英語単語小テストの合格率35%→38%(人文SIにおいては、倍増した。授業での働き掛けの効果がかった。	14%	56%	28%	2%	2.8	B	・次年度も実施し、学力向上・進路実績を目指す。また、授業での働き掛けなどをさらに工夫し、合格率UPを目指す。	
		3年	進路希望別の補習を実施し、大学の難易度別の補習を実施する。	・指名補習の参加率100%を目指す。 ・模試GTZ(学習到達ゾーン)でのBランク以上を各教科で50名以上を目指す。	B	・定期考査前の指名補習は、全員参加した。毎日、受験対策補習を実施し、放課後だけではなく、朝7時からの早朝補習も実施した。 ・センター試験では、過去5年で最も高い点数であった。	29%	65%	6%	0%	3.2	A	・補習のノウハウや実力考査の分析結果を明確な形で次年度に残したいと考えている。	
		教育課程	・平成29年度入学生に対する教育課程の設定を行う。	・現行の教育課程のなかでの問題点を整理し、教育課程の精選を行う。	C	・平成29年度入学生の教育課程の大枠は決定した。	21%	40%	32%	8%	2.7	B	・3年生選択科目について継続審議していく。	
		将来構想	・平成30年以降の入学生を想定した、本格的な教育課程の改定に向けた準備を開始する。特にカリキュラムマネジメントの導入に向けた準備を行う。	・他校における教育課程改編の情報収集を行う。 ・教育課程の重点項目についての原案を作成する。 ・教育課程の編成のもとになる、本校の将来像についての検討を進める。	C	・平成29年度入学生教育課程改編作業で収集を行ったが、30年度以降に向けた準備までは至らなかった。 D ・カリキュラムの改編や具体的な数値を挙げて学校の目標を検討した。	17%	36%	38%	9%	2.6	C	・平成29年度入学生の教育課程をベースに作業を進める。 B ・校務分掌の大幅な改編を検討していく。	
2	「学び」の質を高める研究授業の実施	教務	・生徒による授業評価を実施して、教員の授業力向上を図る。	・生徒による授業満足度70%以上にする。	D	・学校全体として実施できなかった。	11%	47%	32%	9%	2.6	D	・一部の教員での実施から学校全体での実施を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの反応を見ながら面白さを感じる事ができる授業の研修を進めて欲しい。 ・授業改善の取組を冊子に総括してはどうか。 ・授業評価は生徒・同僚(同科目)・学校幹部(あるいは保護者)の3面から実施して360度評価を実施すべきと思う。 ・多面的な評価を継続的に実施してよい面・改善が必要な面を教育品質の向上に活かしていくべきである。
		教務	・授業巡回を定期的に実施し、情報交換の促進に努める。	・巡回は定期的に実施し、共通ファイルに記録して気づきなどを共有する。	C	・授業規律週間に巡回を実施しているが、記録を活用しての情報共有はできなかった。	11%	49%	26%	13%	2.6	C	・情報共有および提供の方法を検討する。	
		学力向上委	・授業公開週間を設定し、期間中に研究授業を実施する。	・授業公開の参観者が20名以上、授業研究による肯定的意見が80%以上を目指す。	C	・6月、11月に公開授業週間を設定し、11月の公開週間に研究授業を実施した。教師間と、生徒からの授業評価を積極的に実施できなかった。	9%	47%	38%	6%	2.6	B	・公開授業、研究授業は、計画通り実施することができたが、「日々公開授業である」という原則を浸透させる。 ・生徒による授業評価や質問シートの活用が積極的になるようにする。次年度は更に時期を増やしたり、呼びかけを徹底することが必要である。	

2 思いやりや寛容の心を持ち、互いを尊重する人間性豊かな生徒の育成						A 満足 B やや満足 C やや不満足 D 不満足											
No.	重点項目	部・学年	具体的取り組み	評価指数	中間評価	最終報告				A	B	C	D	スコア 4点	最終 評価	次年度に向けた展望	学校評議員・学校関係評価委員の提言
1	様々なボランティア活動を通じた自己有用感の育成	特色推進	・生徒が何らかの形でボランティアに係わる機会を昨年より多く設定し、ボランティア活動の活性化を図る。	ボランティア同好会、ひがだねボランティア等の活動についての情報を情報公開を進めるとともに、生徒のボランティア参加者を20%以上増加させる。	B	・ボランティア同好会とひがだねメンバーを統一を検討したが実践できなかった。しかし、ひがだねメンバーは、学校説明会の運営補助をメインとして行い、従来通りのボランティア同好会の活動と役割を分けておくことも、1つの方法である。	38%	53%	6%	4%	3.2	B	・年度当初に学校外での活動が複数あれば、軌道に乗りやすいため、H29年4月・5月・6月の活動機会を増やしておく。学校外の活動に関して、交通費の補助を支給できる環境を作りたい。	・ボランティア、震災学習は継承すべきである。 ・PTAとも協力して地域の活動に参加できる方法を考えて欲しい。 ・地域ボランティアについて幅広く、小さなことでも気軽に取り組んではどうか。 ・東北や熊本へのボランティアは費用がかかり、学校側も費用の捻出に苦心されていると聞きます。東北の震災は発生して既に5年が経過し復興も福島を除きひと段落しています。ボランティアの対象先は足下にもたくさんあるのではないのでしょうか？特別介護老人ホームや障害者施設等交通費をかけなくても助けを必要としている人はたくさんいると思う。兵庫県企画県民部の協働推進室等と連携し、NPO・ボランティア活動支援を検討してみたらどうでしょうか？			
			・東日本大震災、熊本地震などへの被災地支援を実施して、生徒の自己有用感を育成する。	・被災地支援の年複数回実施と生徒の自己有用感獲得率90%以上とする。	A	・被災地に行き活動したことで防災意識の向上や、人の役に立つ喜びを実感できた。ただ、東北ボランティアや熊本ボランティアが単発のものとなっており、支援の継続までには至っていない。	49%	45%	4%	2%	3.4	B	・「自然災害があれば、支援活動に向くこともある」という認識を日頃から生徒に説明しておく。				
			・地域ボランティアの活性化を進め、企業や地域住民との連携を強化する。	・地域連携のための組織を立ち上げて、地域の緑化事業に貢献する。	B	・地域の緑化事業は、事情により頓挫してしまっ。夏祭りや地域イベントに関わるお手伝いは、要請があれば、極力出向いている。	23%	46%	27%	4%	2.9	C	・深江地区の要請先が固定されているので、広がってほしい。				
2	人権教育、インクルーシブ教育の充実	人権推進	・年間計画に基づき、全ての教科やLHRなど、あらゆる機会を通して人権教育を推進する。	・人権教育推進委員会を隔月開催、各学年・専門部間の意見調整を図る。	B	・教科地歴で人権を扱い授業を公開、県の人権訪問指導を受けた。2学年は年間計画にそってHRを実施している。	17%	63%	13%	6%	2.9	B	・より生徒達が理解しやすいかたちの人権教育を検討し年間計画を作成する。	・人権教育・特別支援教育の観点はより教員が研修すべきことが多い。「知る」「気付く」ことの大切さがある。 ・特別支援学校の生徒との交流をしてはどうか。 ・教職員の研修はとても良いことと思う。しかし生徒に講演会を聴かせる以前に保護者に対して人権教育・啓蒙を進めていくべきと考えます。親は子の鏡。生徒の人権教育のためには遠回りに見えますが最も効果的な方法だと思います。授業参観にあわせて人権講演会等を企画してみるのもよいかと思ひます。			
			・人権教育推進のため、生徒向け講演会と、職員向け研修会を開催して、人権に関する理解を深める。	・生徒向け講演会を年1～2回開催し、それと並行して職員向け研修会を開催する。その際の理解促進について肯定的見解が80%以上になることを目標にする。	B	・本年度、2月に生徒向け講演会を実施する。 ・LBGT関連の職員研修会を3月に実施する。	10%	63%	19%	8%	2.8	B	・人権教育推進のため、職員向け研修会、生徒向け講演会、また授業等、人権に関する理解を深められるようにする。				
			・特別支援教育委員会を中心として、校内での体制整備をすすめる。	・特別支援教育推進委員会を最低でも隔月で開催し、生徒の状況把握に努める。	C	・心のサポート委員会と併せて実施していたが、報告のみで検討するまでには至らなかった。	15%	58%	27%	0%	2.9	C	・心のサポート委員会と併せて情報収集、支援方法等検討する場を設けたい。				
・全校生徒に対する保健調査をおこない、個々に支援が必要な生徒の有無を調べ、教育的ニーズの実態を把握する。	・保健調査は1学期に行い、個々のプライバシーに配慮しつつ、必要な情報の共有化を図る。	A	・年度当初に家庭より報告のある要配慮生徒については全職員で共通理解出来たが、発達障害等の疑いのある生徒の把握が出来ていなかった。	31%	63%	6%	0%	3.3	B	・疑いのある生徒についても各学年から情報収集し支援方法等検討していきたい。							
・特別支援教育に係わる知識等について、職員研修会を開催する。	・今年度は特に合理的配慮に関する研修会を開催し、職員の理解を深める。	A	・8月に合理的配慮、1月に発達障害についての職員研修会を実施し、障害のある生徒への受け入れ体制について学ぶことが出来た。	21%	57%	21%	2%	3.0	A	・合理的配慮、発達障害についての職員研修は継続して実施し、理解度を深めていきたい。							
・特別支援教育への配慮が必要な生徒がいることを想定し、特別支援学校との連携を進める。	・必要に応じてセンター的機能を活用する為の窓口を一本化する。	D	・特別支援学校との連携は現時点とれていない。	6%	35%	44%	15%	2.3	D	・積極的に特別支援学校で実施の研修会等にも参加し情報交換をしていきたい。							
3	教務	特色推進	・インクルーシブ教育システムの整備を目的として、個に応じた柔軟なカリキュラムの設定を推進する。	・カリキュラムの設定のほか、個別の支援計画などを準備しておく。	C	・平成29年度入学生の教育課程においては3年選択科目群は継続審議となった。	8%	34%	45%	13%	2.4	C	・本校の教育課程とインクルーシブ教育システムをどう関連付けるかも含めて検討していく。				

3 心身ともに健康で、社会の変化に柔軟に対応できる生徒の育成						A 満足 B やや満足 C やや不満足 D 不満足											
No.	重点項目	部・学年	具体的取り組み	評価指数	中間評価	最終報告				A	B	C	D	スコア 4点	最終 評価	次年度に向けた展望	学校評議員・学校関係評価委員の提言
1	さまざまな体験を通じたキャリア教育の推進	進路指導	・3年間を見通した総合的な進路計画を樹立する。	・1～3学年それぞれの状況に応じ、統合化された学習計画を提示する。	A	・4年前に策定した東灘進路指導におけるキャリア教育計画に基づいて各学年が中心となり、進路計画を策定し実施した。	15%	53%	26%	6%	2.8	A	・左記計画が今年で実施3年目となり全学年が新しい計画に沿った進路指導を体系的に行うことができたことを踏まえ、現況に応じた計画の改定を少しずつ補ってゆく。	<p>・海外への修学旅行は、確実な目標・目的があればよいが、費用の面から保護者の負担が大きくなるのではないかな。</p> <p>・文化祭・体育祭の準備の段階で、教員の手数はかかるが生徒と一緒に進めてはどうか。</p> <p>・特色推進の目標である生徒の自己有用感の確立とはボランティア活動なの検証をすべきである。目標2-1とどこが違うのか判らない。また多くの項目が評価指数を生徒アンケートの満足度及び自己達成感に関する項目で80%以上としています。最終報告の多くにその具体的な数値がなく感覚的な報告になっている。そもそも指導の効果測定に生徒のアンケートを評価基準とすることが正しいのかも含めて再検討すべきと思う。</p>			
			・「総合的な学習の時間」における進路学習、キャリア教育を計画的に実施し、個々の進路に関する意識の涵養を図る。	・「総合的な学習の時間」に係る生徒の評価(ABCの三段階評価のうち、B以上を80%にすることを目標とする。	B	・2学年では夏季体験学習において”満足している”と回答した生徒が全体の92%となった。 ・3学年の総合的な学習の時間に対する生徒アンケートでは80%の者が進路指導に役立ったと回答した。	17%	55%	23%	6%	2.8	A	・次年度以降もきめこまやかな指導を学年と連携し、継続していく。				
			・キャリア教育を推進するための体制づくりと、キャリア教育についての理解を深めるための職員向け研修会を開催する。	・昨年までの文科省指定研究事業での成果を基に研修会などをおこない、職員間でのキャリア教育に関する理解度が90%以上となる。	B	・4月、12月にベネッセの本校担当者を招聘しての職員研修の実施、第3学年学年会議への進路部長参加、進路指導室へ入室した教員との指導方向性や情報の共有など”草の根”活動を実施した。 また、11月には関西大学川崎教授を招いての「キャリア教育を推進する教員の指導力向上」研修を実施した。	21%	58%	10%	12%	2.9	B	・次年度以降も、生徒の実態把握や情報共有に努めるとともに、高大接続改革を見据えた研修なども実施し、充実させたい。				
		特色推進	・キャリア教育促進のために進めている「兵庫型『体験教育』東灘高校版」のより一層の促進と共に、ボランティアや生徒会活動と連動した、生徒の自己有用感の確立を進める。	D	・アンケートは実施していないが、毎回ボランティア活動のたびに、生徒の表情は生き生きとし、また機会があれば手伝いたいという言葉が生まれている。	12%	69%	13%	6%	2.9	B	・特色推進部では、これからも「ボランティア」「地域貢献」を軸とした体験活動を実施していく。					
		総務	・各種学校行事に際して、生徒会と連携し、生徒の主体的活動を増やす。	B	・文化祭、体育祭などの学校行事で生徒に役割を与え主体的に活動できるように企画・実施した。	30%	57%	13%	0%	3.2	B	・各種学校行事に際して、生徒会と連携し、企画も含め生徒の主体的活動を増やす。					
		生徒指導	・生徒会活動全般に関する主体性の涵養	・各種の校内行事について、生徒アンケートの満足度、及び自己達成感に関する項目で、80%以上が肯定的な見解を持つことを目指す。	B	・積極的な活動ができつつある。	26%	68%	6%	0%	3.2	B	・積極的な活動ができつつあるが、教師が生徒が前面に出る機会を奪わないように配慮していきたい。				
			・文化祭(東灘祭)の企画・運営等について、生徒会が中心となるように進行する。		C	・教師主体の運営の部分が多い。	19%	52%	29%	0%	2.9	C	・教師主体、先導の部分が多かったことから、次年度以降は、生徒との打ち合わせを早期から頻繁に行い、教師が任せる、待つ姿勢で臨みたいと考える。				
			・体育祭の企画・運営について、生徒会、体育委員会の主体的な活動を促す。		C	・まだまだ教師が主体に運営する部分が多かったことが課題である。	11%	62%	19%	8%	2.8	C	・立案、運営を任せる努力が教師には必要である。生徒との打ち合わせを早期から頻繁に行い、教師が任せる、待つ姿勢で臨みたいと考える。				
			・部活動における生徒の主体性を重視し、安全管理を含めて部活動の自主性を尊重する。		B	・部長会を学期毎に開き、リーダーの育成に努めることができた。AEDの講習会を開き安全意識改革を図った。	23%	60%	11%	6%	3.0	B	・部長会の内容を部員たちに周知させるなど、リーダーの育成に更に努める。AEDの講習会以外にも安全講習会を開き安全意識改革を図る。				

1年	HRにおける生徒の自己肯定感の向上を図り、球技大会などの運営で生徒の主体性を育む。	・各学年とも生徒の自己有用感、自尊感情などの指標が80%を超えることを目標とする。	A	・各係活動等で、自主的に行動する姿が見られた。球技大会は未実施(3月実施)である。	19%	69%	12%	0%	3.1	A	・海外修学旅行を成功させるために生徒の自主性を伸ばす仕掛けを作っていく。
2年	HR活動のほかに、修学旅行などの学校行事を充実させ、生徒の自主的な行動を促すための仕掛けをつくる		A	・自己肯定感の値が、1年生4月2.2→2年生7月2.5→2年生9月2.6と上昇した。(5段階) ・生徒の自主的な行動を促す仕掛けを行い、体育祭では「やればできる」という実感をもたせることができた。 ・修学旅行は92%が楽しかったと答えた。特に学年レクリエーションを個々の自主性・表現力向上、リーダー育てに役立て効果があった。	27%	67%	4%	2%	3.2	A	・「やればできる」実感をさらに増やし、自信を持って進路実現できるように支援する。
3年	最高学年としてのTPOに応じた行動力を身につけ、ボランティア活動等にも積極的に参加を促す。		C	・日々の学校生活の中での、すべての活動がTPOを身に着けるためのものであった。1学期に実施したクリーン作戦の活動状況は良好であり、夏季休業中に実施した熊本ボランティアに8名が参加した。校外学習では、現地集合・現地解散を実施したが、生徒全員が5分前に集合した。	18%	67%	12%	2%	3.0	B	・学校行事の少ない3年生では、すべての教育活動でTPOを身に着けるための教師の工夫が必要であろう。

2	さまざまな体験を通じたキャリア教育の推進	防災	・防災マニュアルの全面改訂をはかり、実際に津波等が発生した時に備える。	・専門家の助言や先進的な取り組みを進めている他の学校の例を参考に、実効性のあるマニュアルを年度内に作成し、職員の防災に対する意識改革を図る。	C	・防災アドバイザーの複数回の指導・助言を得て、2号線以北への水平避難を具体化する。	13%	55%	23%	9%	2.7	B	・水平避難の訓練を実施し、要する時間やチェック方法を検討したい。	・海に近い立地で津波が心配される環境の中、防災への取組は大切である。 ・水平避難について取り組んでください。 ・地域防災会議の取り組みはとても良いことと思う。もし水平避難を検討するのであれば、更に進めて地域合同避難訓練の実施を検討してみたい。	
			・防災マニュアルに基づき、非常事態訓練、避難所設置訓練を実施する。		C	・今年度は、仮設校舎を利用していたため、緊急時グランド集合の避難訓練を行った。	19%	68%	9%	4%	3.0	B	・校内で上履きを利用する2足制の緊急時における問題点の検証を行う。		
			・12月に「地域防災会議」を開催し、防災避難訓練と併せて地域ぐるみの防災活動を推進する。	・生徒の主体的参加を図り、各学年でのHRにおいて防災に関する意識付けを行い、職員と生徒が一致した認識を持つように心がける。 ・なお、防災訓練終了後に防災に関する意識調査を行い、生徒満足度90%を目指す。	C	・防災アドバイザーの複数回の指導・助言を得て、2号線以北への水平避難を具体化する。	30%	60%	6%	4%	3.2	B	・地域と連携して、深江大橋に殺到する人々をスムーズに避難するシステムを相談したい。		
			・各HRで被災地支援の体験などを基にした、防災・減災に関する学習を行い、防災訓練に際する意識の向上を図る。		C	・防災ホームルームでは避難所経営についてのワークショップを行った。活発に議論がされ、配慮すべきことについての多くの気づきがあった。	23%	64%	8%	6%	3.0	B	・今後も生徒が興味を持ち、考えることができる題材を提供し、意識向上を図りたい。		
3	生徒個々の適性と能力を大切にされた進路指導	進路指導	・補習計画及び模試計画を立案し、全校的な学習意欲の拡大を図る。	・1～3学年それぞれの状況に応じ、統合化された補習及び模試計画を提示する。また、補習と模試が特定の職員の負担にならないように全職員に係る仕組みを作る。	A	・通常、長期休業中、どちらの補習も計画通りスムーズに実施された。	21%	53%	23%	4%	2.9	A	・次年度以降も同様に生徒の進路や学力に応じた補習計画が行えるように配慮していく。 ・全職員が関わる形での模試監督配分により「職員全員で生徒を育てている」という思いを共有できるようにしていくとともに、監督割に対する学年の負担を軽減できるようにしていく。	・現在の取組を推し進めてください。 ・進路指導については実績も向上して評価も高いので、よく推進されていると思う。既に実施されているかも知れないが、卒業生の体験談を進路別・大学別に来るだけ2年夏休み前等早いうちに実施して動機づけをするのも良いことと思う。	
			・就職希望者に対する計画的なマナー講座、一般教養講座等を開講する。		A	・定期的に内定者集会を開催することで学習への意欲と内定者としての自覚を確認することができた。また、2月にもハローワーク担当者からの「就職内定者講座」を実施し、定着率を高める指導を予定している。	28%	53%	17%	2%	3.1	A	・就職希望者へのよりきめ細やかな面談などを行い、企業とのマッチングを強化する。		
3	生徒個々の適性と能力を大切にされた進路指導	生徒指導	・規範意識の確立を目的とした生徒指導のルールに基づき、全職員で生徒指導を推進する。	・週1回は生徒指導部会を開催して、情報の共有化と、指導方針の一致を進める。	B	・生徒指導部会の定期的開催、情報の共有化はできつつある。全教職員での共有化が今後の課題である。	17%	66%	11%	6%	2.9	B	・生徒指導部会の開催、情報の共有化はできた。その情報を全教職員で共有化するために、定期的な生徒指導研修会も開催したい。	・企画・計画・準備が大切である。 ・企業などでの体験学習が有効である。 ・特別指導の多発は気がかりである。生徒指導部と学年が連携を密にして頑張ってもらいたい。 ・生徒個々の適性と能力を見定め、適切な指導を一人ひとり行うことは至難の業だと思う。先生一人にかかる負担はかなりのものである。進路指導だけではなく、保護者のより深い関与を促すべきだと思う。そのためにPTA活動がより開かれた参加しやすいようなものになっているのか、仕事で参加できない保護者が参加できるように工夫しているのか、改めて考え直してはどうか。	
			・問題行動に対しては毅然たる態度で臨み、指導に際しては個々の生徒の内面の改善を目標とした本校独自の指導プログラムを統括する。	・問題行動による特別指導の件数を昨年度比で20%減少を図る。	D	・特別指導の件数が、近年の中では多く発生した。規範意識の低下が原因でもあるが、教員の指導不足の側面と、巡回や指導強化の影響の両側面を持つ。	19%	57%	21%	4%	2.9	C	・特別指導の件数が今年度特に多かった。規範意識の低下が原因でもあるが、教員の経験不足を補うため生徒指導研修と問題行動に対するアンテナを組織で張っておく必要がある。		
			・カウント制の遅刻指導、服装・頭髪指導や、登下校指導を実施することで基本的生活習慣の確立に努める。	・遅刻指導等の累積による保護者連絡などを昨年度比で20%減少させる。	B	・基本的生活習慣の確立につながりつつある。	25%	64%	9%	2%	3.1	B	・登下校指導、日常の声かけ、保護者連絡などで基本的生活習慣が確立されつつあるが、遅刻が減少するまでには至っておらず、登校時に校門指導を全学年で行うなど別の指導方法も検討する。		
		1年	・手帳を活用して、自己管理の大切さを意識させ、全体に対しては適宜学年集会を開催して、意識の統一を図る。	・手帳による自己管理、時間管理の徹底を図り、手帳の持参率100%を目指す。	C	・手帳に関しては運用方法を明確化できないまま、個々人の自主性に任せる形となった。	10%	56%	29%	6%	2.7	C	・自己管理・情報管理を徹底させるための統一運用を図りたい。		
		2年	・進路LHR、総合的な学習の時間などで進路ガイダンス、職業についての説明会、卒業生インタビューなどを実施する。	・生徒の職業に関する意識を高めると共に、3学期段階で進路希望の意思確定者90%以上を目指す。	A	・LHRで就業に関する下調べや職業における礼法指導を実施。夏季体験学習を充実させることで意欲を図った。	25%	63%	10%	2%	3.1	A	・ここでの学びを進路実現に結びつけていく。		
			・手帳を活用して、自己管理の大切さを意識させ、全体に対しては適宜学年集会を開催して、意識の統一を図る。	・手帳による自己管理、時間管理の徹底を図り、手帳の持参率100%を目指す。	B	・持参率95%、常時持ち歩いている者は76.4%（他校平均57.9%）、持ち物や提出物の管理59.1%、宿題課題の管理34.9%、手帳を使うことで「書く」ことが増えた56.1%（他校平均50.8%）。	24%	63%	10%	2%	3.1	A	・次年度も3年連続で手帳を活用させ、進路実現にむけて、また、社会人の一歩としての時間管理を含めた自己管理能力向上を目指す。		
		3年	・夏季体験学習の期間を設定し、就業体験、大学見学などの機会を通じて、進路に関する意識を高める。	・夏季体験学習の満足度80%以上にする。	A	・満足度93%（41回生86%、40回生85%）である。	35%	57%	6%	2%	3.2	A	・学びを進路実現に活かす。		
			・進学補習をあらゆる機会を通じて実施し、生徒の意識を高めつつ目標とする進学先への合格者を増やす。	・大学・短大進学率60%以上、さらに難関校（国公立大、関関同立、産近甲龍など）への合格者10名以上を実現する。	B	・大学・短大進学希望者は67%となった。2月1日現在で、国公立大学合格者3名、難関私立大学の合格者は7名である。センター試験では、過去5年で最も高い成績であった。今後、国公立大学に2名、難関私立大学に10名以上受験予定である。	50%	34%	14%	2%	3.3	A	・本年度、41回生で実施した進路指導のノウハウと分析を、次年度に引き継いでもらえるよう工夫している。		
		保健	校内清掃	・個々の適性を見計らい、進路に向けた意識を向上させつつ就職指導を行う。	・学校斡旋による就職内定率100%を目指す。	C	・学校斡旋による就職内定率100%を達成した。神戸市職員に1名合格した。	38%	52%	10%	0%	3.3	A		・公務員試験を合格させるために、2年生からの継続的な取り組みが必要である。
				・校内清掃についての企画を行い、美化活動を推進する。	・日々の清掃、及び大掃除の分担と担当を決定し、校内の美化に努める。	A	・校内清掃については仮設校舎で、清掃道具等不足しているところがあり清掃担当には不便をかけた。	13%	49%	34%	4%	2.7	B		・清掃しやすい環境を作り、美化活動の推進に努めていきたい。

4 情報の発信と共有					A 満足 B やや満足 C やや不満足 D 不満足									
No.	重点項目	部・学年	具体的取り組み	評価指数	中間評価	最終報告	A	B	C	D	スコア 4点	最終評価	次年度に向けた展望	学校評議員・学校関係評価委員の提言
1	家庭・地域・中学校等関係機関への積極的な情報発信	総務	・職員会議などで決定した日程などをHPに掲載する。	・総務による行事変更などのHP更新は最低でも月1回実施する。	B	・月間行事予定・当日の変更などHPなどの更新を随時行っている。	29%	52%	17%	2%	3.1	B	・月間行事予定・当日の変更も含めHP等の有効利用につなげる。	・写真・画像の提供も有効であるが「文章・言葉の力も大切である。 ・熊本ボランティアのテレビでの特集報道後、周囲の方から反響があり、あらためてマスコミの影響を感じた。 ・今回できていなかった事項について、次年度は同じことにならないよう、定期的に点検する。 ・地元小・中学校と共同で地域行事参加や施設へのボランティアを行い、縦の関係を再構築する。このことで生徒のリーダーシップの発揮を促したり、小・中学生のメンターの存在になることで志望者増加に繋げることができないものか。 ・学校紹介新聞やHPの取り組みは情報があふれている現在、かけた労力に比べると効果は限定的ではないかと思えます。
			・PTAへの情報発信、特に「めーるinポン」を活用した情報を発信する。	・重要な情報のPTAへの即時連絡を含め、「めーるにポン」による連絡を年間10回以上行う。	B	・必要な時に、その都度活用している。(4月から15回配信)	25%	52%	15%	8%	2.9	B	・PTAへの情報発信、特に「めーるinポン」を活用した情報を発信をさらに充実させる。	
			・HP全般の管理運営を活性化し、学校ブログの記入を随時行う。	・定期的な更新を含め、HPに対するアンケート(学校評価及び学校訪問時に)での肯定的評価が80%以上にする。	D	・アンケートの実施はしていないが、職員からまた外部から不評な意見は出なかった。見やすい情報提供を心がけ、ブログを活用しながら、学校生活を発信している。	17%	51%	28%	4%	2.8	B	・多くの部活動が、手軽に情報発信できるよう、更新方法を簡単にする。	
		特色推進	・定期的な「東灘新聞」の編集と発行、さらに本校広報を充実させる。	・学校新聞(東灘新聞)の年間6回程度発行と、新聞の中学校(旧第1学区、及び本校進学意思のある生徒の在籍校)への漏れの無い配付を行う。	A	・中学校や関係機関に学校新聞の配布時期が遅くなるがあった。	23%	44%	29%	4%	2.9	B	・発行後、すぐに中学や地域施設に届けられるよう分担を決める。	
			・その他、校内の活動を積極的にマスコミに告知する。	・年間複数回新聞に本校生の活躍が掲載されることを目指す。	A	・熊本ボランティア活動、自然科学部の活動、宿泊防災訓練に関する記事が掲載された。 ・また、熊本ボランティアでは活動内容を関西テレビで放映された。	40%	32%	26%	2%	3.1	B	・マスコミに告知することも、東灘高校の広報活動として、大切であるが、広報を優先に考え、取り組みを企画するような愚行にならぬよう、告知内容を吟味し、マスコミにも協力を仰ぐ。	
			・夏季のオープンハイスクールと、秋季の学校説明会を開催し、中学生の本校への関心を高める。	・オープンハイスクール、学校説明会を共に年間2回開催する。	B	・オープンハイスクールや学校説明会では、多くの来校者から、高い評価を得られた。	34%	57%	9%	0%	3.2	A	・夏のオープンハイスクールは従来通り2回開催する。11月の学校説明会は1回開催とし、その対応を考える。	
				・体験授業や部活動見学などを実施し、参加した中学生の満足度80%以上とする。 ・部活動の様子を動画で紹介する。	B	・8月のオープンハイスクールアンケートでは、東灘高校の理解度は、中学生86% 保護者75% という結果であった。また体験授業は、どの教科も80%を越えていた。部活動見学に関しては、74%であった。	36%	55%	9%	0%	3.3	A	・志願者数が増えることを1つの目標に、学校のアピールを試みたい。	
		進路指導	・家庭に対する定期的な進路情報を提供する。	・年間3回以上進路情報(進路通信)を発行し、進路についての知識普及を図る。	A	・6月より月1回をめどに発行し、1月末現在で第7号まで発行。その都度、各学年に伝えたい内容を記事に盛り込むことができた。	34%	43%	19%	4%	3.1	A	・生徒にとって最良のタイミングで、新しく有意な情報を届けるべく、次年度以降も年間3回以上の発行を行う。	
			・HPに進路の状況を定期的に掲載して、地域に本校生徒の進路実績を告知する。	・年間3回以上の改定を行う。	D	・現3年生の進路結果をHPに反映させることはできなかったが、3月発行予定の東灘新聞に掲載予定である。	21%	47%	30%	2%	2.9	C	・特色推進部と連携を図りながら、個人情報の保護や誤報を防ぐという観点からも、正確な進路実績を10月以降に定期更新していきたい。	
		2	学年内・学年間、専門部内・専門部間等学校全体で情報を共有	総務	・校内ネットワークなどを用いた情報の共有化を図る。	・校内LANを使用したネットワークで資料を準備し、会議の短縮を図る。	B	・校内ネットワークは活用されるようになったが、会議の資料を含めもっと補完できると思われる。	17%	52%	17%	13%	2.7	
・校務運営委員会の資料を事前に配布するなど、会議の進行の円滑化を図る。	・校務運営委員会の3日前には資料を揃え、事前検討が可能なスタイルを構築する。				B	・会議資料を事前に配布し会議の円滑化を図った。	27%	50%	15%	8%	3.0	C	・すべての会議資料を事前に配布し、若しくは閲覧できるようにし会議の円滑化を図る。	
教務	・ICTを活用して成績入力、出欠入力を一本化し、個々の資料データをコンピュータで一元管理する体制を構築する。			・新しい成績・出欠入力システムを試験的に導入し、次年度からの本格導入に備える。	B	・試験導入のスケジュールが遅れているため、現行の教務支援システムで運用した。	4%	48%	29%	19%	2.4	B	・新システムの導入時期は未定だが、現行の校内ICT機器で対応可能と確認できている。	

5 教職員の意識の高揚						A 満足 B やや満足 C やや不満足 D 不満足											
No.	重点項目	部・学年	具体的取り組み	評価指数	中間評価	最終報告				A	B	C	D	スコア 4点	最終 評価	次年度に向けた展望	学校評議員・学校関係評価委員の提言
1	前例の踏襲から脱却し、創意工夫できる教職員の育成	教頭	・校内研修の充実を図る。	・年間計画に基づく職員研修会を定期的に行い、研修成果の肯定的意見が70%になることを目標とする。	B	・合理的配慮の研修会や発達障害の研修会を実施し、以後の教育活動に反映させ、それを検証していく。	12%	56%	25%	8%	2.7	B	・学力向上のためのアクティブラーニングや図書館活用を活性化させる研修会を実施する。	・予算の問題もあるが1年間で一人1回は校外の研修に参加できるようにしていただきたい。 ・教員一人ひとりのスキルチェックが来ているのか。教員の人事評価と教育のためには人事考課シートとは別に評価をフィードバックして対象教員に学校として何を望むのかを明確に共有できる仕組みがあるべきと思う。研修参加もその方向性に沿ったものに参加させるようにすべきである。 ・学力向上のためのアクティブラーニング等一律の研修はあり得ないと思う。			
			・外部研修に積極的に参加する。	・研修所で開催される校外研修などへの積極的参加を促し、昨年度比で20%の上昇を目標とする。	B	・今年度28件の校外研修に参加し、校内での研修報告会を開催した。校外研修への参加が、前年度より41%上昇した。	10%	54%	25%	12%	2.6	B	・学力向上のためのアクティブラーニングや図書館の充実のための研修に参加していく。				
			・女性教員と若手教員の起用による、組織の活性化を促進する。	・女性、若手教員の校務運営委員会・将来構想委員会における比率の増加を推進する。	C	・校務運営委員会には女性4名起用(昨年度2名)、将来構想委員会には女性2名起用(昨年度1名)した。	17%	48%	29%	6%	2.8	B	・校務運営委員会、将来構想委員会の女性、若手教員の比率をさらに上昇させる。				
2	互いの資質向上のために切磋琢磨できる教職員の育成	学力向上	・公開授業、研究授業と連動した授業力向上研修会を開催して、個々の課題を認識し、相互に意見を交換する場を設ける。	・年間3回の授業公開研修と、研究授業の実施と併せて、2学期に授業力向上研修を企画する。	C	・年間2回の授業公開週間を実施した。研究授業の実施と質問ペーパーの活用、授業評価も併せて実施した。併せて、2学期に授業力向上研修を実施した。	21%	55%	19%	6%	2.9	B	・2学年は「第1志望届」を活用した進路実現を目指し、1・2学期の「指導力向上による学力向上」から「自ら計画目標を持ち学力を向上させる」といった、生徒が主体的に学ぶことを立案実施していきたい。	・外部から講師を招き、視野を広げることが重要である。 ・現在の取組を継続してください。 ・学年を超えた科目別の勉強会、研究会、発表会等を年に1度程度保護者や生徒に対して行うことで教員間のノウハウの共有化やスキルの移転、自発的な自己啓発を促す方法もあると思う。 ・一方で生徒の学園祭はルールを定めて生徒の自主性にゆだねるなどしてはどうか。			
		保健	・カウンセリングマインド研修を開催し、生徒の内面理解についての方法を学ぶ。	・カウンセリングマインド研修は年間2回以上開催する。	B	・8月に合理的配慮1月には発達障害の研修会を開催し、障害の定義や配慮について研修を実施した。	23%	63%	12%	2%	3.1	B	・本校のキャンパスカウンセラーにマインド研修を実施しより身近な事例を通して理解を深めていきたい。				
		生徒指導	・18歳選挙権の実施に伴い、政治的教養に関する研修会を開催する。	・公民としての必要な政治的教養については、1年は公民科の授業、2年は2月、3年は5月に政治的教養に関する講演会を開催する。	B	・3年生には1学期末に、体育館で講演会を実施した。1年は公民科の授業で、2・3年は日本史Aの授業で政治的教養について言及した。	25%	49%	19%	8%	2.9	B	・3年生には1学期末に体育館で講演会を実施した。1年は公民科の授業で、2年は2月に政治的教養に関する講演会を開催した。講演会や集会の開催などなかなか時間が取りにくいですが、計画的に取り組んでいく。				
			・教職員が薬物の脅威について正しく知るための研修会と併せ、生徒に対する講演会も開催する。	・薬物講演会もしくは研修会はどちらかを必ず年1回開催する。	D	・薬物乱用防止に関する講演会を12月に開催した。新入生と保護者に対しては合格者説明会の場で講演会を行い、スマホの扱いに注意をしたい。	34%	55%	9%	2%	3.2	A	・新入生と保護者に対して合格者説明会で講演会を行い、12月に今年度同様に講演会を実施したい。				
			・スマートフォンの普及、インターネット・SNSの問題点について、教師・生徒の双方が正しい知識をもち、情報リテラシーを確立するような研修会を開催する。	・情報モラル講演会を専門家を招聘して年1回開催する。	C	・SNS被害に関する講演会を12月に開催した。新入生と保護者に対しては合格者説明会の場で講演会を行い、スマホの扱いに注意をしたい。	32%	57%	11%	0%	3.2	A	・新入生と保護者に対して合格者説明会で講演会を行い、12月に今年度同様に講演会を実施したい。				
3	コミュニケーションを大切にし、理解し合える教職員	保健	・キャンパスカウンセリングを生徒に対する相談はもちろん、保護者・教員の心のサポートにも積極的な活用を図る。	・キャンパスカウンセラーの時間占有率100%を目指す。	A	・キャンパスカウンセラーとのカンファレンスにより、助言を受けながら支援や見守りができた。	31%	54%	15%	0%	3.2	A	・学年・職員とキャンパスカウンセラーとの交流が必要である。事例検討会等実施していきたい。	・コミュニケーション応力をつけること、高めることが重要である。 ・キャンパスカウンセラーと教員との情報共有について、工夫をしていただきたい。 ・改正労働安全衛生法で義務化されたストレスチェックは学校も対象となっていますが、チェック結果に対して保健部としては何か具体的に動いているのか。学校行政に対しても提言していくことが求められると思う。			
		教頭	・職場内での声掛けや面談などを通じて、教員のメンタルヘルス向上に努める。	・職場内で相互に相談できる雰囲気づくりを促進する。	C	・メンター制を一部導入し実施したが、計画的な取組でなかった。	13%	46%	37%	4%	2.7	C	・年度当初からメンター制を導入していく。				
		安全衛生	・安全衛生委員会を各学期で開催し、職員のメンタルヘルスに関する現状や課題を確認し、改善に向けた提言を行う。	・安全衛生委員会を年3回開催し、各会で職員の意識調査のアンケートを取る。	B	・安全衛生委員会を3回開催した。職員アンケートから環境整備面とメンタルヘルスの在り方を検討し、改善できる点は改善された。	10%	46%	38%	6%	2.6	B	・継続して環境整備とメンタルヘルスの改善を行っていく。				

6 教育環境の整備と学校評価の推進					A 満足 B やや満足 C やや不満足 D 不満足												
No.	重点項目	部・学年	具体的取り組み	評価指数	中間評価	最終報告				A	B	C	D	スコア 4点	最終 評価	次年度に向けた展望	学校評議員・学校関係評価委員の提言
1	どの生徒も安心して通える教育環境づくり	保健	・キャンパスカウンセラーを活用し、教育相談を定期的開催し、生徒・保護者・教員の心のサポートに努める。	・キャンパスカウンセラーによる教育相談を年間27回を計画している。	A	・毎月教育相談の案内を配布することにより、相談日を徹底することができた。				35%	58%	6%	2%	3.3	A	・誰でも気軽に相談できるような職場環境作りに努める。	・ホウレンソウの励行によりささいなサインを見逃さない仕組みが出来ているのか。ヒヤリハットの法則というものがあるが、1件の大事故の前には20件の同種の軽度の事故があり、その前に300件のヒヤリ・ハットした経験があると言われています。同じように危害防止や事故防止・ひいてはいじめ防止等ヒヤリハットのような情報をいかに学校経営が認識できるかが大事だと思う。
		1年 2年 3年	・教育相談の案内を告知し、必要と思われる生徒や保護者に案内する。	・定期的な教育相談の案内を通知する。	B	(1年)・保健室・スクールカウンセラーとの連絡を密にし、必要な生徒・保護者が教育相談を活用できた。				32%	66%	2%	0%	3.3	B	・今後も情報提供を適宜行い、生徒・保護者の悩みに応える体制を維持・発展させたい。	
			・細やかな生徒への観察、声掛け、面談などを進めて生徒理解を深める。	・週1回の学年会での生徒情報の共有を行う。	A	(2・3年)・教育相談の案内プリントは、全生徒に配布し、個別に案内も行うなどの積極的な活用、および、保健部との連携を図った。									A	・次年度も個々の細やかな対応に活用する。	
			・アンケートの内容を受けて、速報を出し、直ちに調査した。面談、巡回等、いじめの未然防止にも努めている。	・年間2回の生徒アンケートの実施を行う。 ・いじめ事案の発生件数0を目指す。	A	(2年)・情報共有100%。学年会では毎回報告し、学年での情報共有を図るだけでなく、学年全体で関わるよう動いている。				30%	66%	4%	0%	3.3	A	・次年度も綿密な情報交換と保健部との連携をはかり、個々の細やかな対応に活用する。	
		・数値を挙げた目標設定を検討し、新カリキュラムの設定に繋げることができたが、本校の特色タイプの在り方の議論は不十分に終わった。	・アンケートの内容を受けて、速報を出し、直ちに調査した。面談、巡回等、いじめの未然防止にも努めている。	A	(3年)・進路指導部と連携し、週1回の学年会議を実施した。日々、生徒個々の情報と学業到達度の共有を行い、各模試の結果返却時に面談を実施した。				A						・生徒個々の進路指導実績を分析し、次年度につながるデータを残す。		
将来 構想	・本校の類型「医療・看護・保育」類型の学習内容、進路実績などを調査し、検証を進める。	・本校の特色タイプの検証を進める。	B	・アンケートの内容を受けて、速報を出し、直ちに調査した。面談、巡回等、いじめの未然防止にも努めている。				11%	47%	32%	9%	2.6	B	・本校の将来構想について、さらに内容の深い議論を進める。			
2	学校評価の検証	教頭	・学校評価の具体的取り組み内容と評価指標の再検討を行い、学校経営の基盤としての学校評価を実施する。	・PDCAサイクルに則った学校評価の作成と、学校関係者評価の方法について再検討を行う。 ・各評価項目全般で80%の達成率を目指し、職員の協働体制を構築する。	B	・評価指標を大幅に変更し、より本校教育目標に則った形となった。 ・各評価目標全般の達成率は73%(平均2.93)であった。				10%	64%	26%	0%	2.8	B	・PDCAサイクルのCAの部分をも具体的に示していく。 ・”なぜなぜ5回”の考え方を浸透させ、職員の協働体制の構築を図る。	・研修会の講師をさせることで、ミドルリーダーとしての責任感を高める。
			・校運、将来構想委員などミドルリーダーに該当する職員に対する学校評価についての研修会を開催する。	・学校評価についてのミドルリーダーの意識付けを明確に行う。	C	・校務運営委員会のメンバーを中心に評価を行い、特に中間報告以降改善する姿勢が多く見られた。				12%	52%	28%	8%	2.7	B		
		全 学 年 ・ 専 門 部	・各学年、専門部の運営方針を学校評価に明確に位置づけ、評価指数を設定して達成を目指す。	・各学年、専門部はそれぞれの評価項目で80%の達成率を目指す。	B	(1年)・個別の案件を見れば問題は散見されるが、年間通しての学年全体的な評価としては、目標を達成できたと考えた。				12%	66%	22%	0%	2.9	B	・きめ細かな生徒指導の実践と進路を意識した学力向上を目指していく。	
					B	(2年)・評価項目85%以上達成。やや、学力向上に向けた仕掛けが足らなかった。現在、3年0学期として、第一志望決定にむけての取組を行っている。									A	・おおむね達成すべき内容を明確にし、達成することができた。学力向上や進路実現にむけて、さらなる向上を目指したい。	
					B	(3年)・学年最大の目標であった進路実績は、我々の目標としている数値を大きくクリアできそうである。									A	・次年度につながるデータを目に見える形で残す。	
C	(教務)・教育課程の見直しは一定の成果を得たが、他の項目は取り組みが不十分なものがあつた。				C	・取り組みの「見える化」を図る。											
B	(総務)・仮設校舎を使用中のこともあり、根本的な取り組みは出来なかったが、業務の効率化は進んでいる。				C	・クラス数やカリキュラムの変遷を踏まえて各教室が有効に使用できるよう検討する。各学校行事の時期・内容・是非を見直す。											